

令和6年度 宮崎県結婚・子育て意識調査結果の概要について

1 調査の目的

本調査は、結婚や子育てに関する県民の意見やニーズを把握し、今後の子ども・子育て支援の各種施策の推進に活用するとともに、宮崎県が策定する「宮崎県こども未来応援プラン」策定の基礎資料とすることを目的として実施する。

2 調査方法等

(1) 調査対象

住民基本台帳から無作為抽出した宮崎県内在住の20代から40代の男女3,000人（男性：1,500人、女性：1,500人）を対象。

(2) 調査方法

郵送又はオンライン

(3) 調査期間

令和6年8月

(4) 設問数

39問

(5) 回答者数

896人／3,000人（29.9%）

（うち男性：307人、女性：588人、性別無回答1人）

3 結果概要

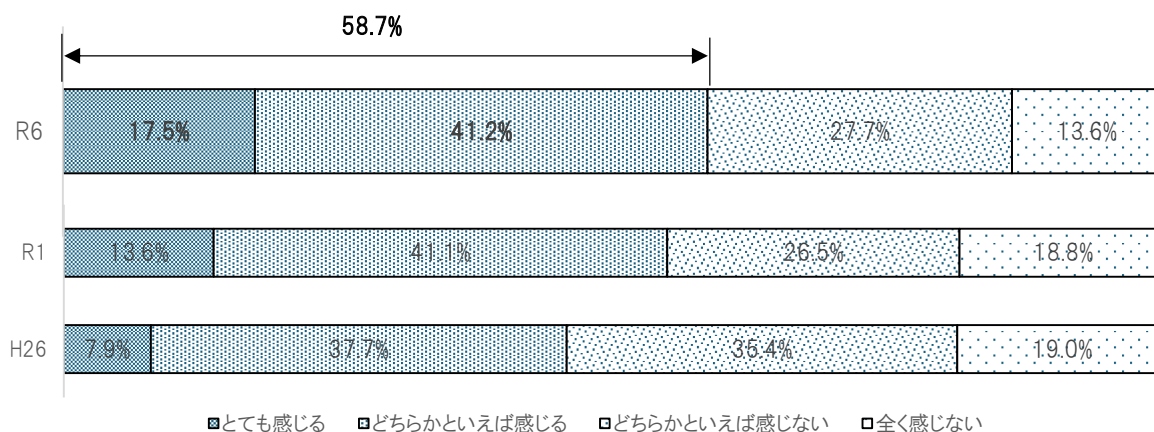
(1) 結婚や子どもを持つことについて

◇ 結婚に対して不安や負担を感じている人の割合（「とても感じる」と「どちらかといえば感じる」の合計）は約6割となっており、過去の調査と比較して増加傾向にあります。

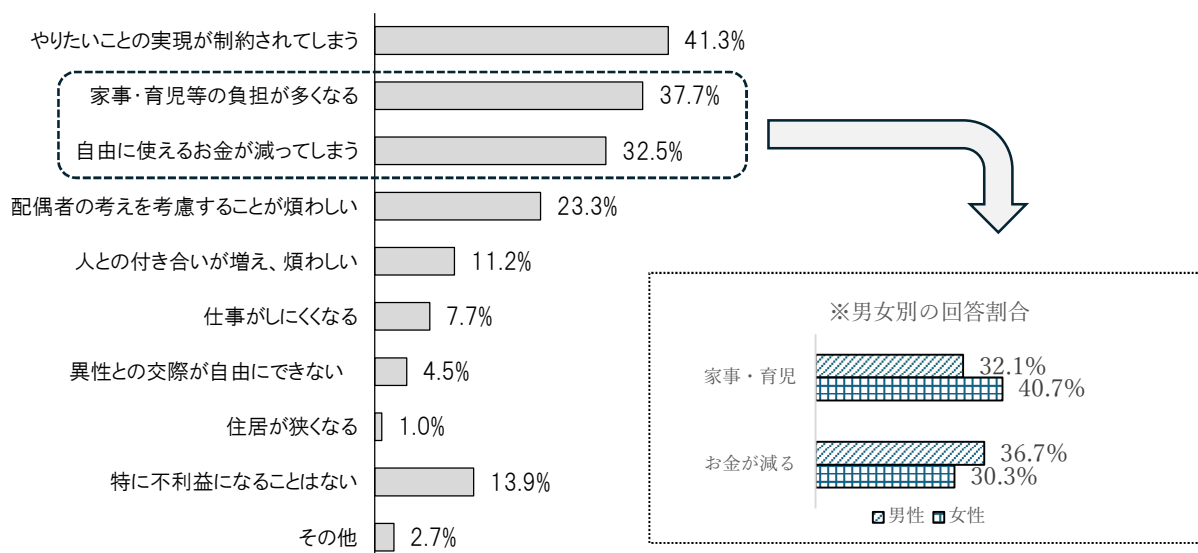
◇ 結婚に伴う不安や負担として、「やりたいことの実現が制約されてしまう」（41.3%）や「家事・育児等の負担が多くなる」（37.7%）、「自由に使えるお金が減ってしまう」（32.5%）など、独身と比べて制約が増えると受け止める意見が多く見られます。

また、性別による傾向を見ると、「家事・育児等の負担」は女性の方が高く、「自由に使えるお金が減ってしまう」は男性が女性を上回っています。

【1-1 結婚に関する不安や負担】



【1-2 結婚することによって生じる不安や負担】

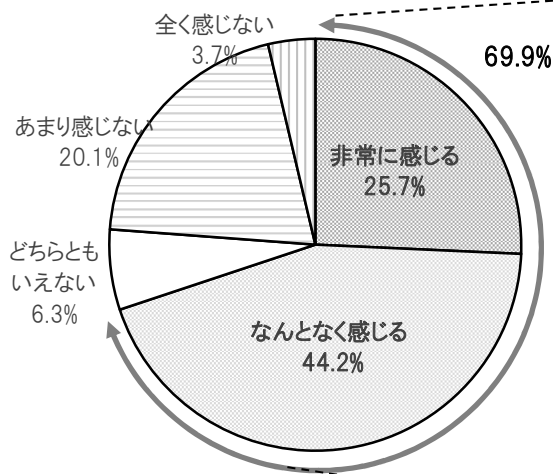


(2) 出産や子育てに関することについて

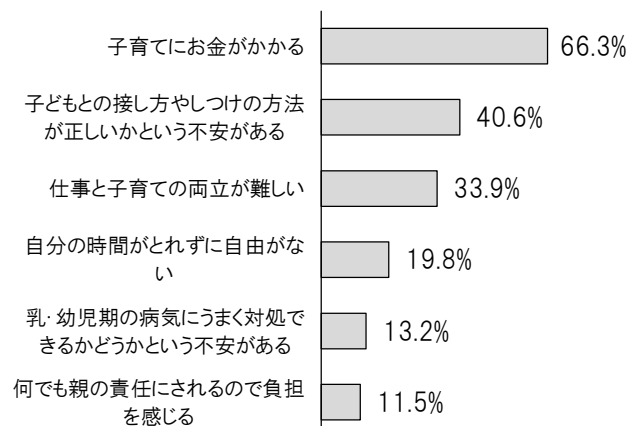
- ◇ 子育てに関して約7割の方が何らかの不安や負担を感じると回答し、その内容としては「子育てにお金がかかる」(66.3%)が最も高くなっています。
- ◇ 理想としているこどもの数は、「2人」と「3人」がそれぞれ3割を超えているのに対し、実際に予定しているこどもの数を見ると、「2人」の割合は理想とほぼ同じですが、「3人」と答えた割合は半減し、代わりに「1人」が増えています。
- ◇ 理想より予定の数が少ない理由として、子育てや教育にかかる経済的負担の回答が多く、いずれも前回調査(R1)より大きく増えています。

また、「高齢出産になるから」と答えた割合も比較的高く(35.8%)、晩婚化や晩産化の影響もうかがえます。

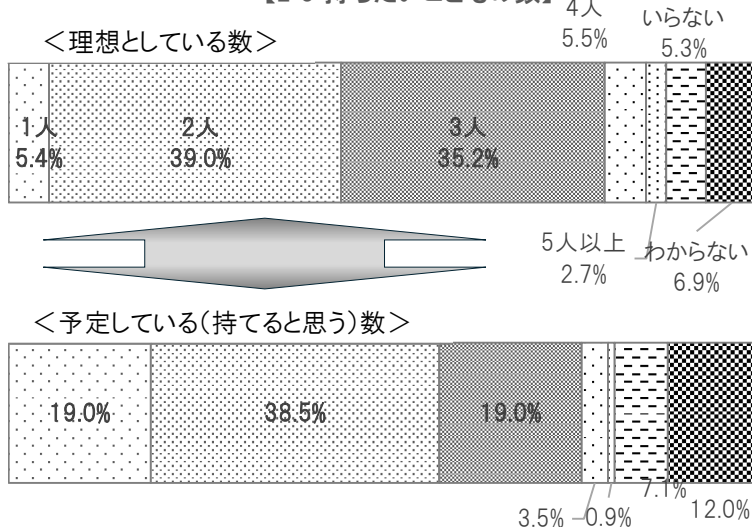
【2-1 子育てに関する不安や負担】



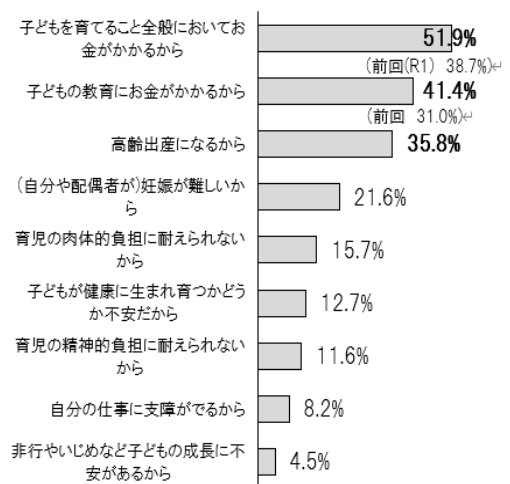
【2-2 主な不安や負担の内容】



【2-3 持ちたいこどもの数】



【2-4 理想よりもこどもが少ない理由】

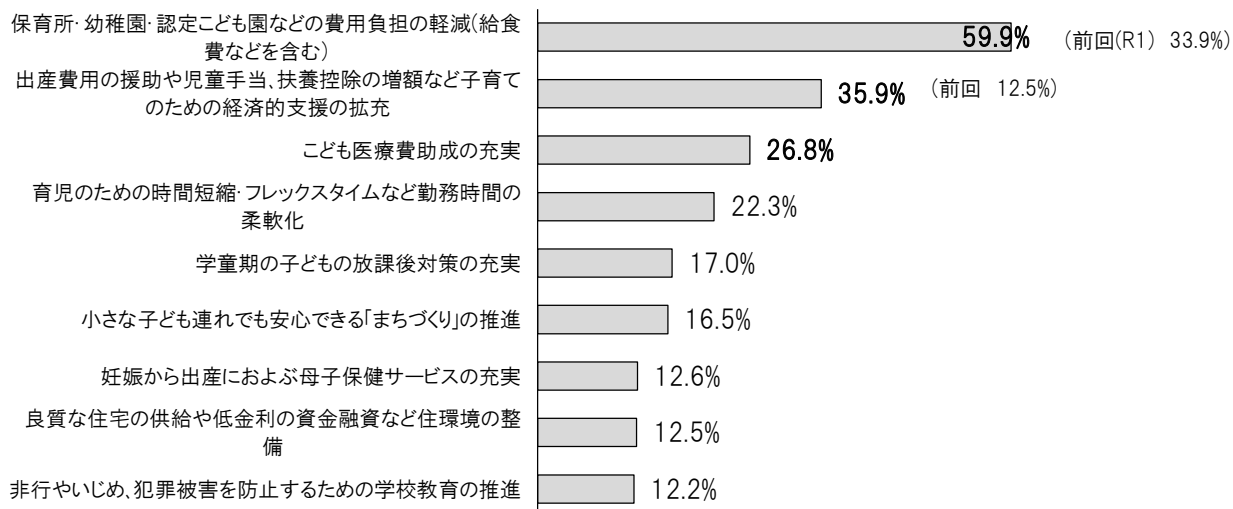


(3) 子育て環境や地域に関することについて

◇ 県や市町村に求める施策としては、「保育所等の費用負担の軽減」(59.9%) が特に多く、「出産費用や児童手当など経済的支援の拡充」(35.9%)、「医療費助成の充実」(26.8%) など、経済的負担の軽減を求める回答が続いています。

中でも、保育所等の費用負担の軽減や医療費助成の充実を求める意見は、前回調査よりも大きく増加しています。

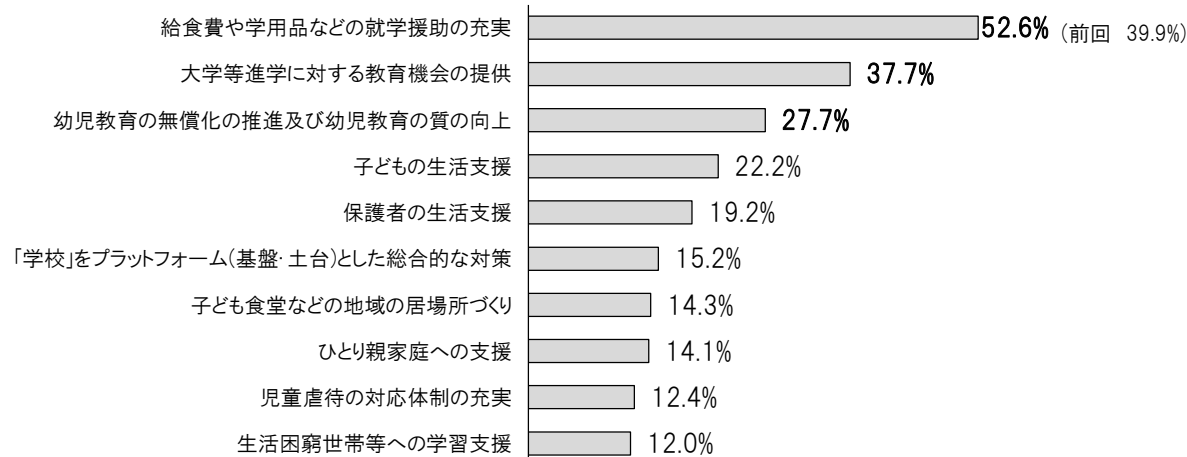
【3 県や市町村に求める主な子育て施策】



(4) こどもの貧困対策に関することについて

◇ 県や市町村に求める貧困対策として、「給食費や学用品などの就学援助の充実」(52.6%) や「大学等進学に対する教育機会の提供」(37.7%)、「幼児教育の無償化の推進及び幼児教育の質の向上」(27.7%) など、経済的な支援を求める意見が上位を占めており、特に就学援助の充実については、前回調査から 10 ポイント以上増加しています。

【4 県や市町村に求める主な貧困対策】

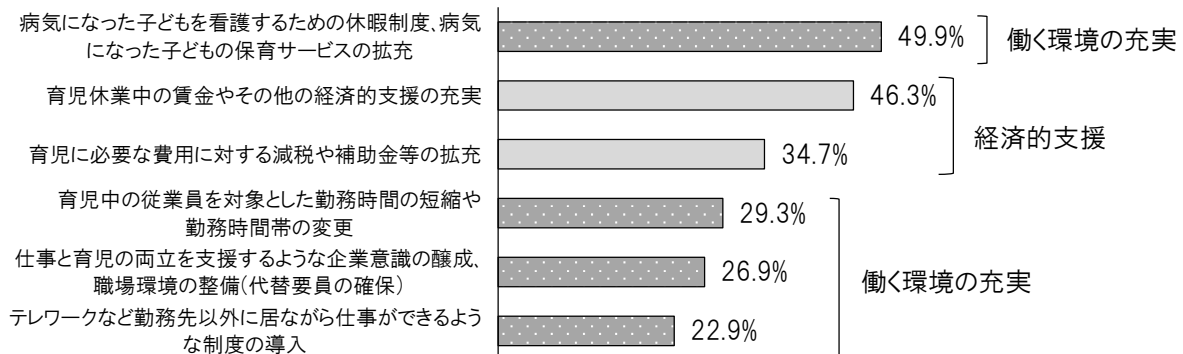


(5) 仕事と子育ての両立に関することについて

◇ 仕事と子育てを両立させる上で、「病気のこどもための看護休暇や保育サービス」(49.9%)や「育児中の従業員の勤務時間短縮等」(29.3%)など、働く環境の充実を求める意見が多く見られます。

また、「育休中の賃金等の充実」(46.3%)や「育児に関する減税や補助金の拡充」(34.7%)など、経済的支援に関する回答も上位にあります。

【5-1 仕事と子育ての両立に必要な主な取組】

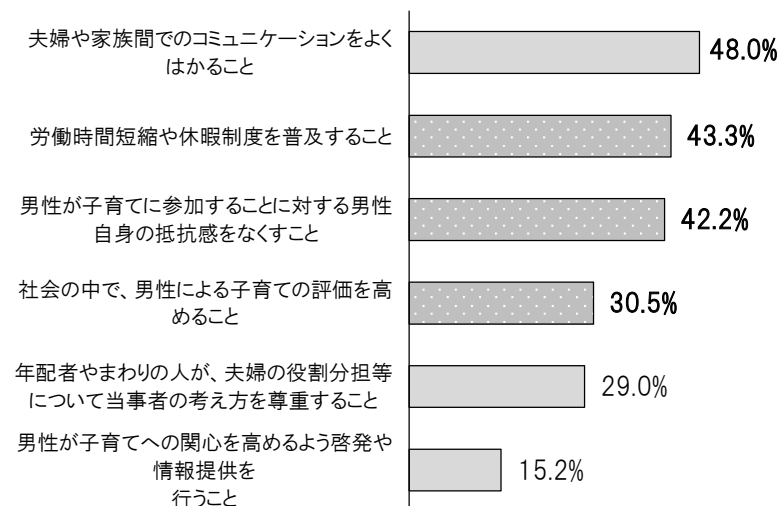


◇ 男性が子育てに積極的に参加していくために必要なこととして、約半数の方が「夫婦や家族間のコミュニケーション」(48.0%)を選んでいきます。

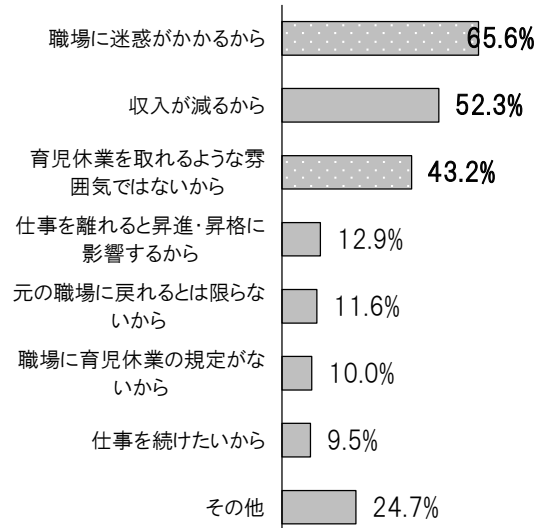
また、「労働時間短縮や休暇制度の普及」(43.3%)など働く環境に関する意見、「子育てに参加する抵抗感をなくす」(42.2%)や「男性の育児の社会的な評価を高める」(30.5%)といった気運醸成に関する意見も比較的多くなっています。

◇ 育休の利用が進まない理由としては、「職場に迷惑がかかる」(65.6%)や「育休を取れる雰囲気ではない」(43.2%)といった職場との関係のほか、「収入が減る」(52.3%)という答えが上位にあります。

【5-2 男性が子育てに積極的に参加するために必要なこと】



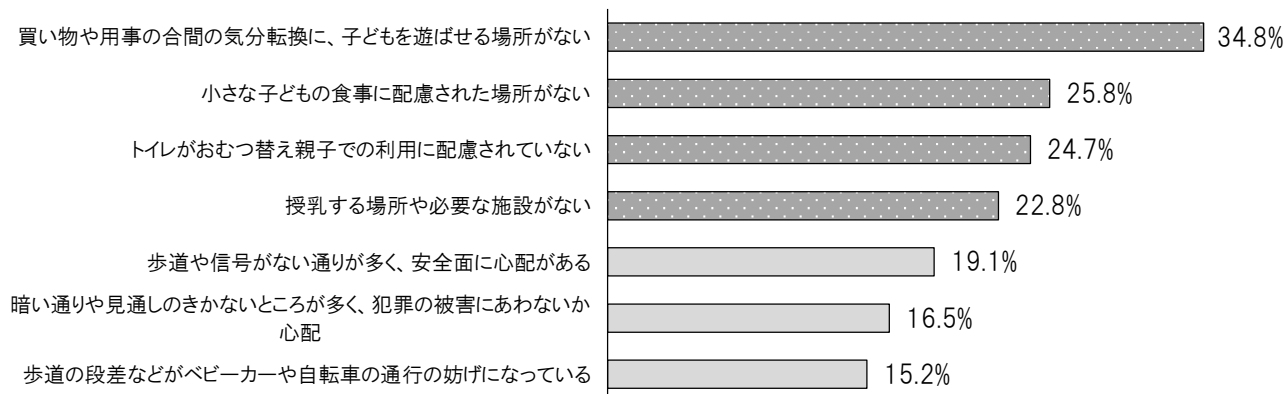
【5-3 育休取得が難しい、又は取得したくない理由】



(6) その他

- ◇ こどもとの外出時に困ることとして、「こどもを遊ばせる場所がない」(34.8%)や「こどもが食事しやすい場所がない」(25.8%)など、子育て環境が不十分であることへの不満を挙げる意見が多いほか、「歩道や信号がない通りが多い」(19.1%)といった安全面を指摘する意見も比較的多く見られます。

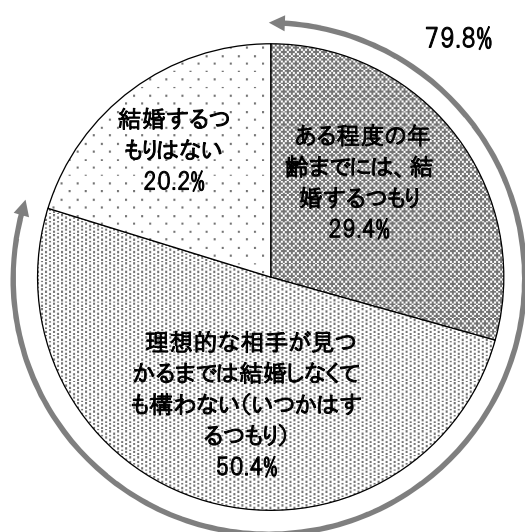
【6-1 こどもとの外出の際に困ること、困ったこと】



- ◇ 未婚者の約8割は、いずれは結婚するつもりと回答しています。
- ◇ 独身でいる理由としては、「相手に巡り会わない」が約3割と最も多かったものの、調査につれてその割合は減少しています。

一方、「自由や気楽さを失いたくない」(21.4%)や「結婚する必要を感じない」(21.0%)、「趣味や娯楽を楽しみたい」(19.0%)など、積極的に独身であることを選択する回答も比較的多く、過去の調査と比べても増加傾向にあります。

【6-2 結婚の意思】



【6-3 独身でいる主な理由】

